

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県  
農業士会連絡協議会

# 和歌山の 農業士

2014  
3  
March

地域農業をリードする熱き農業者達

第2号





# はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が互いの活動を共有し、関係者の皆様や一般の方々へも広く積極的に情報発信していくため、作成しています。

農業士が長年の農業経験で培ったその経営観や考え、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。







# 巻頭言

## 「新規就農者の円滑な定着にむけて」

和歌山県農業大学校就農支援センター

所 長 大 江 吉 人



農業士の皆様には、和歌山県農業の牽引役として、それぞれの地域でご活躍されておりますことに対し心から敬意を表するとともに、当センターの農家研修先として多くの実習生を受け入れ、熱心にご指導いただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、就農支援センターは、U・Iターン者の就農に必要な支援をワンストップで行う機関として平成16年に設置され、今年度で10年の節目を迎えました。

この間、農家の後継者たる子弟はもとより、本格的農業経営を志す新規参入者など350名以上に対して、野菜、花き、果樹栽培の実践技術や農業に関する基本的な知識の修得研修を実施するとともに、就農地の情報提供や経営のアドバイスなど様々なサポートを行い、その結果、新規参入140名を含め、240名余りの方々が県内各地で就農しています。

一方、県の新規就農者数は、平成13年度に100人を超えて以降も徐々に増え、直近5年平均では約170名と、過去20年のうち最も多くなつてはいます。しかしながら、基幹的農業従事者の半数以上が65歳を超え、主業農家がこの20年間でほぼ半減し、耕作放棄地が逆に倍増している現状を考えますと、その数はまだまだ少ないと言わざるを得ません。

特に新規参入者については、「就農支援資金」や「青年就農給付金」等の支援制度により、農業機械や施設の導入など初期投資の負担が以前と比べ、軽減されることから近年増加傾向にあります。その

割合は新規就農全体の20%未満に留まっています。条件の良い農地が借りにくいことや栽培技術の未熟さ、経験不足により、就農初期には期待どおりの収益が上がりにくいことなど、Uターンと比べハードルが高いことが要因の一つと考えられます。

就農希望者は、自然と触れあい、安全で美味しい農産物を人々に提供できる「農業」に魅力を感じ、夢を持ってやってきますが、同時に、新たな環境へ飛び込むことの不安も抱えています。こうした人達がハードルを乗り越え、農業・農村に定着し、安定した経営を行うためには、県や市町村、農業委員会、JA等関係機関による支援に加え、地域ぐるみで新規参入を受け入れ、支えていただく取り組みが大変重要となります。

5年先、10年先の地域の姿を考えてみた時、「誰が担い手となり農業を支えるのか」具体的に思い描くことができない方も多いのではないのでしょうか。

「担い手の育成、確保」と「新規就農」……双方の「思い」をうまくマッチングできれば、新規参入はまだまだ増えると思います。どうか農業士の皆様方には、そのための仕組みづくりに、地域の旗振り役としてその指導力をより発揮していただくことを願っております。

最後になりましたが、農業士会の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念いたします。

# 私の農業

## ITの活用で 新しい農業経営を試みる

海南市 指導農業士

橋爪道夫



### 1. はじめに

建設会社に7年勤務（コンピュータソフトのプログラミング等を担当）後、退社して農業を始めました。柑橘の販売価格の下落傾向が続き、水耕栽培のトマト、ハウス栽培で亜熱帯果樹のチェリモヤを手がけました。その後、トマトは10年後にキュウリへと変わり20年が経過、チェリモヤは露地栽培が可能なアボカドとホワイトサポテ（とろけるような甘さが自慢の果樹）に変わりました。

柑橘も品種更新をしまして、今は、和歌山の特色を出せるゆら早生、丹生系温州、はるか、サンフルーツ、キウイフルーツに変わりました。



こだわりのホワイトサポテと筆者

### 2. 農業経営の特徴（ITの活用） （生産面での取り組み）

主力品目の水耕キュウリは、接ぎ木を行わず、自根で栽培しています。果皮が薄く、キュウリ本来の食感が楽しめるという好評です。

現在、このハウス内で新たな環境制御システム導

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
水耕キュウリ	14a
熱帯果樹育苗ハウス	4a
露地アボカド	5a
（ベーコン、ハス）	
ホワイトサポテ	10a
（クシオ）	
柑橘	60a
キウイフルーツ	15a
○加工所	
漬け物その他加工所	20㎡
○労働力	
家族労力	2名
パート雇用	4名

入に取り組んでおり、近畿大学生物理工学部生物工学科 星 岳彦 教授にご指導頂きながら、スマートフォンに観測データ（室温、相対湿度、飽差、光量子束、CO2濃度）を送信して、パソコンでデー



主力品目キュウリの水耕栽培

タ管理をする、まさにオランダ農業の基本技術を取り入れようとしています。日本農業のITによる栽培管理の幕開です。



センサー、制御部分とスマートフォン



スマートフォンによる表示

### (販売面での取り組み)

主な販売はスーパー等への直接販売です。最近、売り上げが増加してきたのはネット販売です。和歌山県が運営するサイト「わいわい市場」での売り上げが年々増加しています。

ホワイテサポテやアボカドなどマイナーな特産果樹もネット販売なら欲しい人に適正な価格でお届けできます。パソコンやスマートフォンの普及で、消費者がネットの検索サイトから欲しい商品を検索し、簡単に購入する。このような時代に急速に変化しつつあると思います。

そこで、自前のホームページ【アボガドの橋爪農園 アドレスは <http://www.hashidumenouen.com>】を作成し、様々な生産・販売情報をお客様に提供しています。

## 3. 今後の経営方針 (六次産業化への取り組み)

20㎡の小さな農産物加工施設が昨年暮れに完成しました。この施設を活用して、キュウリの各種漬け物や佃煮、アボカド、ホワイテサポテのピューレからアイスクリーム等を販売する計画です。この加工販売が軌道に乗るように今年は、頑張りたいです。

### (木質ペレットの利用促進)

燃料油の価格高騰で、施設園芸経営も大変厳しくなっています。

新潟県・高知県・岡山県等では、すでに一般家庭や農家に木質ペレットボイラーが普及しつつあります。当、和歌山県にも資源は豊富にあり、木質ペレットの生産・販売・流通・消費のルートを一日も早く確立して頂きたいと切に願っています。



新設の加工施設

## 4. おわりに

時代はめざましいスピードで変化しています。この時代を先取りするような農業は無理としても、遅れないように行けるような農業をしたいと思っています。

又、お客様からの喜びのお返事を頂くと無上の喜びを感じ、損得勘定を忘れますね!!

親戚がだんだん増えていくような気がします。

安全は当たり前、「美味しさ」にこだわり、オンリーワンの生産、販売をしていきたいと思っています。

# 私の農業

## 楽しい農業、 ゆとりある農業を目指して ～スプレーギクへの転換～

紀の川市 指導農業士

厚地美穂



### 1. はじめに

3Kの農業にならないように、ゆとりある農業を目指して、時間のゆとり、心のゆとりを考えて経営をしています。経済的なゆとりはなかなか難しいですが……。

36年前、親の反対を押し切って非農家から嫁いできました。『なんとかなるやろ～』と来たものの、農業はそんなに生やさしいものではありませんでした。

当初は、義父中心で野菜を作っていましたが、夕食後の夜なべ作業もあって、夜中の2時頃まで仕事にかかることもありましたが、自分たちの生活費など自分で使えるお金もなく、つらい思いをしました。

そのうち野菜の価格低迷が続き、主人が中心となりスプレーギクに切り替え、自分で自由に使えるお小遣いも貰うようになり、経営が軌道に乗りかけたとき、主人が癌で約3ヶ月入院しました。病気が病気だけに看病したかったのですが、農業は休むと収入がなくなります。それからは、まず、『健康が第一！』で、ゆとりある農業を目標に努力してきました。

### 2. 農業経営の特徴

『生活の手段として農業をするのであって、農業のために生活をしているのではない』と思い、無理をせず、ゆとりを持って生活しようと経営を考えました。

#### 農業経営の概況

- 作付品目と面積  
スプレーギク（施設） 65a
- 労働力  
家族3人、常雇用4人  
臨時雇用 数人



収穫作業中です。

ハウスで1年通してスプレーギクを栽培・出荷するため、7年ごとに色々な制度資金を利用して1棟ずつ増やし、現在では8棟2,000坪にまで施設の規模拡大を図りました。

#### (スプレーギクの栽培技術)

スプレーギクは、植えて約3ヶ月で収穫できるので、15日間隔で本田に直接挿し芽して、ポリ資材で2週間程度被覆し発根させ無摘芯栽培します。毎月、2ハウスで約5～6万本を年中途切れることなく収穫し、それでサラリーマンのように月々の収入が得られています。

初めの頃は、パーライトに挿し芽をし、発根させた苗をハウスに定植、それを1～3本に仕立てるピンチ（摘心）栽培を行っていました。しかし、その方法では収穫まで4ヶ月近くかかり、労力面でも植え付けが二度手間で、ピンチや芽の整理作業も必要と、ハウスの回転率が悪くなります。加えて、秀品率（2L率）も低下し、経費もかかるので、現在は直挿し・無摘心栽培に落ち着いています。



倉庫で収穫したキクを調整しています。

### （家族経営から農業法人へ）

9年前、息子が後を継いだのを機に、有限会社マムフェローファームを立ち上げ息子を代表にし、私も役員になり、完全に給料制になりました。英語で菊のことを「クリサンセマム」と言うので「マム」をとって、仲間という意味の「フェロー」をあわせました。

雇用面では、50歳以上のパート2人、30歳代のアルバイト2人に来てもらっています。他にも忙しいときには、アルバイト数人が来てくれます。また、フラワーバインダーと言う機械を導入し、能率良く出荷調整作業をしています。雇用は4人ですが、基本的に午前中に仕事が終わるので2人を常時1日雇用していることになります。

そして、パートとアルバイトでソフトバレーボールチーム（マムフェロー）を結成し、週1回の練習と年2回の試合に出場します。みんな練習を楽しみにし、試合に勝つためにどんな練習をしたらよいか…など休憩の時に話が弾み、和気あいあい楽しい職場になっています。しかし、経営では冬期の加温栽培（15

～18℃）期間に必要なA重油が100円/ℓを超え、栽培をやめる仲間が多い中、産地を維持するため、採算を考えず栽培を行っています。

いつか『続けていて良かった』と思える日が来ることを信じて・・・、なので、金銭的なゆとりはまだまだ遠いです。

### 3. 今後の経営方針

今後は息子がスプレーギク栽培を続けて行くかどうか分かりませんが、自分で考え、やりたいことをやりたいようにしていってくれたらいいと思います。私たちも健康に気をつけ協力して行こうと思います。



卒業式の門出にスプレーギク

### 4. おわりに

スプレーギク婦人部の活動で、スプレーギクの良さ（日持ちがする、豊富な色彩等）を知ってもらうため、紀の川市役所の受付へフラワーアレンジメントを飾ってもらっています。これまで20年間続けています。

また、毎年、小・中学校の卒業式や入学式にもフラワーアレンジメントを寄付しています。

昨年は、紀の川市青少年健全育成推進協議会でスプレーギクを使ってのフラワーアレンジメント教室に協力し、小学生に体験して貰いました。子供の時期に花を身近に見て、触れることで心が落ち着き、感情が豊かになると思います。女性の農業士として、心の優しい子供が多くなればと願い、『食育』と共に『花育』にも力を入れていきたいと思っています。

# 私の農業

## 周年出荷を目指して ～施設栽培と露地栽培の組み合わせ～

橋本市 地域農業士

坂 口 佳 弘



### 1. はじめに

私は、県立農業大学校を卒業後、会社に勤めていたが、31歳で退社し、平成6年に就農した。

専業農家であり、父親が病気になり、跡を継ぐことを決意した。

就農後は、労力配分を考え、柿の栽培面積を減らし、野菜と小菊の栽培に力を入れている。

### 2. 農業経営の特徴

現在は、各種の野菜（タマネギ、ブロッコリー、ハクサイ、ピーマン、シシトウ、カボチャ等）を、施設（メロン、ホウレンソウ、コマツナが主体）と露地に配分し栽培、さらに小菊、柿、水稻の栽培、串柿加工も手掛け、複合経営を行っている。

#### (多品目栽培への取り組み)

野菜は、各品目の収穫時期と重ならないように栽培計画を立て、周年出荷できるように、1年を通じて10品目を栽培している。

小菊は、盆と彼岸に向けに出荷出来るように作付けしているが、連作できないので、水稻と交互に耕作地を交換し、微生物資材を使用して土作りに力を入れている。防除も1週間から10日間隔で防除し、忌避剤の使用で防除回数を減らし、少しでもコストを下げる工夫をし、品質の高い小菊を作ることに努力している。

#### 農業経営の概況

##### ○作付品目と面積

水稻	60a
カキ	60a
野菜	30a
小菊	15a
施設野菜	8a

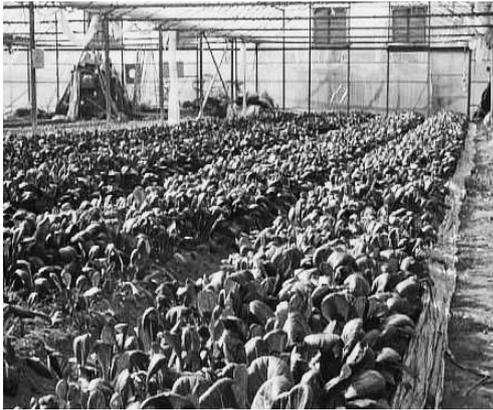
##### ○労働力

家族3人 臨時雇用2人

また、就農当時から橋本市内で栽培されていないものを作ってみようと思い、7年前から少しずつであるが、施設でメロン栽培を始めた。肥培管理、水分管理が非常に難しく、現在も勉強中と感じているが、お盆のお供え用として、使ってくれる消費者が多くなったことに手応えを感じている。



いろんな野菜を作るパイプハウス



施設でのコマツナ栽培



柿栽培ほ場

### (販売流通面での取り組み)

野菜は、JA 紀北かわかみやっちゃん広場に新鮮で安全・安心な野菜を毎日出荷している。小菊は、泉州花卉市場に個選で出荷している。出荷物はすべて個人の名前が入っているので、消費者の信頼・信用を得るためにも品質の良い物を揃え、出荷するように心掛けている。

### (加工品の取り組み)

竹尾地区は、古くから正月用の串柿を生産加工している地域で、自身で栽培した柿（四ツ溝）を6名の生産者で出荷組合を作り、共同で荷作りをして、JA 紀北かわかみを通じ「マルイの串柿として市場出荷している。

さらに4年前ぐらいから、平核無柿の皮をむいて吊し柿に加工し、これもJA 紀北かわかみやっちゃん広場に出荷している。

これら加工の取り組みは、地域のPRにもなり、柿収穫後の少し手の空いた期間を活用するのにちょうどいいと考えている。

### 3. 今後の経営方針

今後も、野菜の周年栽培を中心に、施設と露地をうまく組み合わせ、消費者のニーズに合う品目作りと、橋本市の特産物となりえる品目を模索して行きたいと考えている。

併せて、雇用労力の確保と新規販売ルートの開拓ができればと思っている。地産地消を目標に、高収入の得られる経営を目標に頑張っていきたい。

### 4. おわりに

農業と一言で言っても大変奥深く、作物を実際に作って見ないと、この場所では何が適しているか、いろんな人からご指導を頂いても、土地の条件や天候に大きく左右され、経験があっても、毎年一からのスタートであると思っている。

ここ数年、農産物の直売所があちらこちらに多くなってきているが、安全・安心を売りに、地域で『村おこし』が出来るような農産物の導入を考えて行きたい。そして、地域の農産物を全国や海外に発信していくことも今後必要になると考えている。

# 私の農業

## 売れる農業を目指す ～高品質・高単価の追求～

有田川町 指導農業士

的 場 清



### 1. はじめに

私は高校卒業後、愛知県でのサラリーマン生活を経て22才の時に地元に戻ってきて、1年間の果樹試験場研修の後、就農しました。

就農当初はネーブル、伊予柑、甘夏、八朔など色々栽培していましたが、園地の土壌条件が完熟の早生に最も合う秩父古生層だったので改植を進め、山畑には温州みかん、地畑にはデコポンを増やしていきました。同様に適地適作の考えから、極早生は導入しませんでした。

また、就農時は共選出荷でしたが、29才の時に個選による出荷体系へと経営を切り替えました。

### 2. 農業経営の特徴

個選だからこそ、品質はもちろん、市場に相手にしてもらうためには『量』が必要です。そのため、早生の収穫を通常より遅らせ、出来具合をみながら一斉収穫し、まとまった量を市場へ出荷することで、品質と量を両立させ、市場の信頼を得るよう努力しています。

#### (生産面での取り組み)

理想は適地適作にこだわった完熟の早生栽培一本なのですが、労力配分も考慮し、一部で晩生の青島と丹生系を栽培しています。しかし、メインはあく

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	170a
（品種）早生	140a
晩生	15a
丹生系	15a
デコポン	30a
○労働力	
家族2人、臨時雇用10人	

まで『完熟の早生』。これで顧客をつかみ、そのほかの品目を売っています。

温州みかん栽培には、『場所』と『剪定』の2つしかないと考えています。栽培技術も必要ですが、良い場所を選ぶのも技術のうちです。



良い園地は日当たりが良い分、風も強いので防風ネットは欠かせない



最も重点をおく技術『剪定』

管理技術の中では、剪定だけはきちりしなければなりません。温州みかんは、5月時点での『芽と花のバランスが勝負』であり、必要であれば摘蕾で調整します。

ここが悪ければ、あとは何をやってもダメだと思います。樹が弱くなければ、糖度がのりませんが、弱すぎると逆に量が穫れません。

この悩ましい問題への私なりの答えが剪定です。『形で弱くして、枝を詰めて強くする』剪定をし、亜主枝を水平に配置しつつ、切り返して枝の長さを詰めています。

### (販売・流通面での取り組み)

29才の時から、出荷市場は変えていません。出荷先を一本に絞ることで、在庫不足のリスクを軽減し、市場との信頼関係につなげています。

しかし、最近はネット販売などの産地からの販売が活発になってきたので、PRをかねて、一部でネット会社を利用した販売を始めました。ネット販売は、買ってくれた人が「こんなみかんなんだ」と思える程度に、取り組んでいこうと思っています。

とにかく市場が大切であり、それも量が大切です。量が無ければ、個選は相手にしてくれません。出荷はすべて5kg箱です。こうすると、積まれても3段積



選果機からの段差を小さく、綿詰め  
の布を敷くなど痛まない工夫をする

みで、10kg箱とは傷み方が全く違います。みかんは腐るのが当たり前ですが、我が家のミカンは『うまい』『腐らない』『数が揃う』との評価をもらっています。

『腐らない』を徹底するため、収穫後の貯蔵に加え、選果前に全ての果実のホゾを切り直すことで、選果ラインで果実が少しでも傷まないように工夫しています。

### 3. 今後の経営方針

今までも、これからも宮川早生など、早生温州の完熟栽培にこだわっていきたい。

もし、宮川早生に代わるような、年内収穫可能な品種が出てきたら、そちらへ移行しなければならないので、常に情報収集を怠らないようにしています。

### 4. おわりに

どんな作業をしても、いつも創意工夫を心がけています。個選になった当初、倉庫やコンテナさえも人から借りていましたが、先を見据え、その当時、近所でほとんど見かけなかったフォークリフトを購入しました。常に「もっとこうしたらいい」「ああしたらいい」と考えることを忘れず、臨時雇用で働いて頂いている人達にも選果の仕方などで色々なアイデアを出してもらっています。

# 私の農業

## ブランド産地の自覚と 誇りと責任と

～今こそ消費者に安全・安心を提供～

みなべ町 指導農業士

藤川 忠 男



### 1. はじめに

私は高校卒業後の昭和45年、当時としては珍しく農家の次男でしたが、親の後を継ぎ就農しました。

就農当時、梅栽培の規模は今ほど大きくはなく、ウメ畑は柑橘との混植の状態であり、当時まだまだ安価であったウメと水稻、露地ウスイエンドウ、その他露地野菜を主とした経営でした。

就農後はビニールハウスでの小菊栽培から始め、スプレーカーネーション、スターチス、カスミソウ、その他草花と、時代の変化に連れて、色々な花き栽培も導入してきましたが、青ウメや梅干しの価格安定の時代とともにビニールハウスもウメ畑へと変わり、現在の経営に至っています。

### 2. 農業経営の特徴

後継者である息子の意見も尊重しながら、栽培品目や品種、販売方法、さらに新しい栽培技術の導入に積極的に取り組んでいます。

#### (生産面での取り組み)

主力品目のウメは、エコファーマーの認定を受け、有機栽培レベルを心がけ、極力減農薬に取り組んでいます。

薬剤散布では、園地の7割でスプリンクラー防除を行っていますが、残りの園地も出来る限り省力化に努めていきたいと考えています。

#### 農業経営の概況

##### ○作付品目と面積

ウメ	300a
水稻	25a
ブロッコリー	20a
キャベツ	15a

##### ○労働力

家族3人、臨時雇用2人



ブロッコリーの収穫作業

また、園地すべてにネットを敷き、落下した梅を収穫しています。梅干しは、衛生面に一番気をつけています。息子の担当である露地野菜のブロッコリー・キャベツでも、エコファーマーの認定を受け、ほぼ有機栽培に近い状態で栽培できるよう努めています。



ブロッコリーの調整作業



ウメの剪定作業

### (販売・流通面での取り組み)

青梅は、全量 JA 出荷をしていますが、梅干は仲買人を通して、梅干加工業者へ販売しています。露地野菜は地域のグループで『こだわり野菜』として市場出荷を行っています。最近の青梅や梅干しは、低価格で大変厳しい状態ではありますが、今後とも消費者の安心・安全のために、トレーサビリティや GAP に取り組み、消費者ニーズに応える努力をしていきたいと思っています。

## 3. 今後の経営方針

家族労働力を基本とし、経営規模も現状維持で行う予定であり、できる限りコスト削減に努めながら、雇用労働力が必要な時も採算性を重視しながら活用していきたいと考えています。

農業経営の移譲や栽培技術・販売方法では、後継者と多少の価値観の違いはあるものの、経営者としての自覚や誇り、責任を持てるよう、営農活動による経済・生活の環境づくりを行いながら、農産物の販売価格の安定に必要な宣伝や情報の発信にも取り組んでいきたいと思っています。

## 4. おわりに

私の住む地域は比較的後継者に恵まれています。が、後継者のいない高齢者も目立ち始め、耕作放棄地が多くなる心配もあります。鳥獣害の問題も大変深刻になっています。

このような耕作放棄地の対策の一つとして、『農外からの参入や意欲のある担い手の育成も必要』との意見もありますが、現実には厳しいと思います。

まずは農業が若者の憧れる職業、または他産業と同等の魅力ある産業になる必要があります。

私の農業経営はごく平凡ですが、生涯現役、明るく元気に楽しい家庭で農作業に汗をかき、農業士として微力ながら、地域の農業振興の役に立ちたいと思っています。

# 私の農業

## 新しい農業で生きのこり ～視点を変えて田舎暮らしそのものを売り物に～

白浜町 指導農業士

金子博子



### 1. はじめに

私は高校を卒業して、神戸で4年間働き、帰省して結婚し、兼業農家の跡取りとして、三人の男の子の子育てしながら『3ちゃん農業』（じいちゃん、ばあちゃん、かあちゃん）を続けて参りました。

女性でも農業で食べていけることを夢見ながら、色々な作物にチャレンジして参りました。稲作農家の限界を感じながら……。

子ども達の手が離れだしてからは、梅農家へのパートに出たりして、梅の知識を習得し、国の減反政策で地域では初めて平成元年に25aの水田へ梅を植えました。当初はみんなに猛反対されたのを思い起こします。ハウスでの花卉栽培も手がけましたが平成10年の未曾有の台風で施設が壊され、諦めました。これはちょうど良かったなあ……と思いました（手間がかかるのと山間地では施設栽培は不利で採算が合わなかったのです）。

梅も倍、倍に収益が上がり、絶頂期を一度味わい、中国産の輸入で大暴落。

『申年の梅』で少し持ち直し、乱高下を繰り返し、現在は梅50a、稲作50aの作付けです。

平成15年からは父、母、叔父の介護に手を取られ、順次3人を見送り、やっと自由になれたと思った頃には自分自身が医者通りの年齢になってしまいました。

### 農業経営の概況

#### ○作付品目と面積

ウメ	50 a
稲作	50 a

#### ○労働力

家族	2人（私・次男）
臨時雇用	10人（延べ）

労働力の不足と自身の高齢化により、農業収益向上は難しく、現在は『田舎暮らし』を売り物に、農業体験と農家民泊での収益向上を目指しています。

### 2. 農業経営の特徴 (体験型観光)

白浜町(旧日置川町)では体験型観光の推進によって都市と農村の交流人口を拡大し、地域の活性化を図るために、平成16年から官民一体となった町づくり協議会『大好き日置川の会』が発足しました。平成23年にはこの協議会をさらに発展させるため、法人化し、『南紀州交流公社』が結成されています。



公社では、従来からあるような、ありきたりの短時間での観光的体験ではなく、農林漁業のしんどい面や大変な作業もありのまま体験し、一次産業への理解を深めてもらう体験をメニューにしています。

民家での農林漁家生活体験（民泊）は、日本の伝統文化を伝え、生きる力を育み、体験者と担い手が互いに交流し、心高まる旅を目指した受入れ活動を行っています。

### （我が家の農家民泊）

我が家も梅、稲作の生産とともに、上記体験農業、民泊を主体に経営を行っています。特に梅は収穫、剪定、ジュースづくり体験の受入に活用し、同時に消費PRも行っています。

稲作は自身の田んぼのみで自家米として作付けしていましたが、田植え体験を希望する学校が増えて、現在では3枚を借り受け、対応しています。

体験を通して子ども達に一次産業への理解と労働の尊さを学び、食生活を大切にする心を育ててもらい、そこから命の大切さも学んでもらえるように努力しています。



民泊の受入

## 3. 今後の経営方針

今後は、農業体験、農家民泊に重きを置いていきたいと考えています。

体験・民泊の受け入れの当初の目標は、500人、100万円でしたが、年々、実績を伸ばしてきており、昨年、平成25年には目標を超える623人を受入れるまでに至りました。

これまでの農業体験受け入れの実績です。

	H15	H16	H17	H18	H19	H20
回数	3	4	3	3	4	4
人数	145	59	56	20	135	130

	H21	H22	H23	H24	H25
回数	2	9	8	14	15
人数	31	375	266	494	623

今後の目標は年間1,000人、200万円。

現在は学生中心ですが一般の受入と自家製品の販売へと繋げていきたいと考えています。

これを達成するためには、コーディネート組織の充実と安定が不可欠であり、地域が一丸となって基本理念をしっかり理解して、実践することが大切です。

## 4. おわりに

『何事にも前向きに諦めないこと』、自分に言い聞かせながら日々過ごしています。

しかし寄る年には勝てず。今日も一日ありがとうの感謝。

なんとかなる・・・。最高・・・。充実している・・・。

# 農業に懸ける想い

## 対面販売から得られたもの ～地域を盛り上げ、営農強化！～

和歌山市 4H クラブ

小杉 耕平



### 1. はじめに

私は両親が農業をする姿を見て、高校生の頃から農業を将来の職業として意識し、2008年に大学を卒業後すぐに就農、和歌山地方4Hクラブにも加入した。

和歌山市でも海に近く、地元では『水軒（すいけん）』と呼ばれている砂地の伝統的なサツマイモ産地でサツマイモとレタスの栽培を行っている。

主な栽培品種は「鳴門金時」と「紅あずま」。両親のもとで農業を学び5年が経ち、農作業や経営状況を一通り理解できるようになってきた。

### 2. 農業への想い・取り組み 【仲間とともに対面販売に挑戦】

一昨年から、毎月第2日曜日にJR海南駅で定期開催される「海南市軽トラック市」にクラブで出店。販売方法や販売先の開拓にもつながると思ったことから自身も参加を始めた。

軽トラックの荷台に農産物を並べて売る活動を通じ、クラブ員と販売や栽培について話を交わす機会が増え、お客さんの反応が直接うかがえ、非常に面白いと感じた。見ず知らずの人が買ってくれた翌月に「おいしかった」と自分の農産物を求めて再び来てくれたときは嬉しく、意欲が出て、昨年はさらに地域の他のイベントにも参加した。

#### 農業経営の概況

##### ○作付品目と面積

サツマイモ	70 a
サツマイモ苗	3 a
レタス	30 a

##### ○労働力

家族3人、臨時雇用1人



4Hクラブの仲間と対面販売

お客様の反応から、直売用にイモのラインナップを充実させるため、全国各地から様々な品種を購入して苗とりから栽培を行った。また、あまりイモを購入しない若い人向けに、焼き芋や知り合いの飲食店に作ってもらったサツマイモプリンを販売した。さらに、直売所への販売も始めた。今後も栽培や販売の改良・拡大を着実に進めていきたい。地域ではサツマイモ農家が減っているが、『水軒のサツマイモ』をもっと多くの人に知って頂きたいので、今後もPRに力を入れて行きたいと思う。

# 農業に懸ける想い

## モモの高品質栽培への取り組み

紀の川市 青年農業士

稲垣 吉 一



### 1. はじめに

私は幼い頃から、家族の作る桃が好きで、平成15年に県農業大学校を卒業後、すぐに就農しました。就農した頃は、母と祖母が2人で1ha以上ある桃畑の管理を2人でしていたので、限界がありました。一年通じて、植え替えや堆肥の施肥などの重労働に加え、摘蕾（果）、袋掛け、収穫の人手不足などかなり無理をしてきたように思います。

農作業は人の手でなければ出来ない作業もたくさんありますが、機械に任せられる作業もあります。今では、運搬車やトラクター、乗用草刈機、SS等を導入し機械化しています。また、パワーショベルで、手作業で行っていた植え替え作業を行い、灌水設備も整え、省力化を進めています。農業の形態も少しずつ変わってきました。

### 2. 農業への想い・取り組み

桃は味や品質が天候に左右されやすく、一定に保ち続ける事は難しいです。私は農業を始めてまだ10年ですが、年々作り難くなっている気がします。

近年は、ゲリラ豪雨ともいわれる程の大雨や極度の干ばつなどの天候不順も目立ちます。桃は収穫時期に降る1日の雨で、味、品質ががらりと変わります。畑の土の状態、土地の形状によっても異なるの

#### 農業経営の概況

##### ○作付け品目・面積

早生モモ	30 a
中生モモ	40 a
晩生モモ	40 a

##### ○労働力

家族4人、臨時雇用2人

で同一にすることは難しいですが、排水不良園では、暗渠や明渠を行い、根への負担を軽減するように心がけています。

また、暖冬や遅霜による凍害などには、堆肥場を作り、植物性、動物性の良質の堆肥を畑に応じて投入します。化学肥料に頼らず、有機を投入する資源循環型農業を実践し、土にも木にも優しい栽培を確立すると共に、低コストや省力化にも繋がりたいと思っています。



土づくりが全ての基本

まだまだ、試行錯誤の毎日です。果樹栽培は長い目で見なければ結果の出ない事が多いですが、翌年の枝の徒長、太さ、蕾の大きさで少しは生育状態を把握できます。元気の良い土は元気の良い木を育てるという考えで、土づくりを基本に作業をしています。

さらに、優良樹の接ぎ木や新品種の導入は、目に見えて品質に変化が現れるため、楽しみの一つです。これらの栽培方法、新品種の導入などを含め、年に数回は、他産地の試験場や栽培農家に視察に行き、情報交換をしています。より多くの技術を習得し、『あら川の桃』ブランドに頼るのではなく、消費者のニーズに応えられる桃作りを実践していきたいと考えています。

そして、JA 青年部などを通じて、小学生に桃の袋掛け体験や農家民泊を行い、少しでも農業への関心を深めてもらえればと思っています。色々な活動に積極的に参加させて頂くことで、年代の違う農業の仲間が増えました。これからも同じ目標を持った仲間達と一緒に新しい事にチャレンジしながら、お互いを高め、『あら川の桃』を守っていきたいと思います。そして、誇れるブランドを立ち上げ育ててくれた地域に恩返し出来ればと思います。

『あら川の桃』は親から受け継いだ大切なブランドです。絶やすことなく、今以上の品質を目指して次世代に繋げていこうと思っています。

# 農業に懸ける想い

## 軍資金 100 万円からのスタート ～やっと 10 年たちました～

橋本市 青年農業士

阪本 龍哉



### 1. はじめに

私は、地元 JA に勤めていたが、地域に増えつつある耕作放棄地を解消したいとの想いが強くなり、平成 16 年に就農した。

最初は、柿を中心に 245a からスタートしたが、より農業経営を拡大したいとの想いから自己資金で、機械を整備し、現在では、地域有数の面積を経営するまでになった。

### 2. 農業への想い・取り組み

現在、柿を中心とした農業経営を実施しているが、数年前から、水田の耕作放棄地に対応するため、露地野菜（かぼちゃとエダマメ）の栽培に取り組み始めた。

雇用している人達と意志疎通を図ることにより、失敗等を少なくすることが、安定生産の課題である。

#### 農業経営の概況

##### ○作付品目と面積

柿	650 a
すもも	65 a
ぶどう	20 a
野菜	80 a

##### ○労働力

家族 2 人 常時雇用 1 人  
臨時雇用 20 人

今後は、地域に増えつつある耕作放棄地を借りて、新規就農する方に、私自身が新規就農から実践してきた非農家でも手持ち資金 100 万円からできる農業経営のノウハウを提供したい。新たな仲間を多く作り、力強い産地確立を目指して、地域に貢献していきたい。



柿の剪定



ブドウの剪定

# 農業に懸ける想い

## 日々、経営改善 ～作業効率化と直売への取組～

広川町 青年農業士

下出真弘



### 1. はじめに

私は、県立農業大学校を卒業後、平成6年に就農した。就農当初は、みかんとブドウを全て市場出荷していたが、平成10年にブドウの作業小屋兼販売施設（ぶどう小屋）を建て、直売に取り組み始めた。同時に、ブドウと同じ時期に販売できる果樹として、ナシを導入した。

以後、ブドウとナシは市場と直売の両方で販売している。

### 2. 農業への想い・取り組み

経営の主品目は温州みかんであるが、私が就農する前の労働力が両親2人だったので、改植まで手が回らなかった。就農後は計画的に園地改造と改植をすすめ、20年かけて今年で全ての園地を改植した。

園地改造では効率化を徹底した結果、段々畑とモノラックはほぼ無くなり、コンテナの積み下ろしがし易くなった。

品種では、以前はほぼ普通温州だったが、労力配分を考慮し、年末に仕事が集中しないよう、また、極早生人気の高まりを受け、日南早生とゆら早生を増やした。

ブドウは全て市場出荷だった頃から物珍しさもあり、直接買いに来られる方がいたことから、直売に踏み切った。

市場流通では消費者に届くまで最低1～2日かか

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	150 a
（極早生 90 a、早生 30 a、 中生 30 a）	
ブドウ	50 a
ナシ・リンゴ	10 a
○労働力	
家族4人	

り、軸が傷んだりするが、新鮮さが直売の売り。ナシも同様に市場出荷とは新鮮さが違う。将来的には、直売と市場出荷の比率が半分ずつくらいになるようにしたいと考えている。

みかんの改植がやっと終わった所なので、当面は今の経営内容で行こうと思っている。今は両親も健康で家族労力で十分回っているが、今後は労力が不安になってくる。その対策を考えていかなければならない。いろいろと課題はあるが、今後とも消費者の皆さんに喜んでもらえる果実を作っていきたい。

改植後の  
温州みかん園



ブドウの  
販売施設

# 農業に懸ける想い

## 省力化で高品質生産！

由良町 青年農業士

川 口 拓 洋



### 1. はじめに

私は、農業大学校を卒業してすぐ、平成9年3月に就農しました。我が家では、柑橘類の栽培を中心とした経営をしています。温州みかんは『ゆら早生』と『早生みかん』を主に、晩柑類では『八朔』と『南津海』（なつみ）を中心に栽培しています。基本的に親がやってきたことをそのまま一緒にやり始め、少しずつ栽培面積を増やし、現在に至っています。

### 2. 農業への想い・取り組み

近年取り組んできたことは、みかんの低樹高化です。愛媛県の篤農家の方が実践しておられ、由良町にも指導に来て頂いたのをきっかけに取り組んできました。温州みかんはもちろん、樹高の高い八朔の木でもやっています。

低くすることで、作業効率が上がり、薬液のかかり具合も良くなります。上をおさえた分、横の方に枝が伸び、木と木の間が詰まってくるので、密植の所は間伐するようにしています。作業効率を上げる



八朔の収穫作業

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	65 a
(ゆら早生 30 a、早生 30 a、 中生 5 a)	
中晩柑	145 a
(八朔、南津海、甘夏、伊予柑等)	
水稻	50 a
○労働力	
家族 4 人	

ことが省力化にもなり、手が行き届くことは高品質生産にもつながってくるので、これからはいいと思うものがあれば取り入れていきたいと思います。軽トラックの通れる道があれば、農薬散布・施肥・収穫何をするにも便利になるので、園内道も少しずつではありますが、増やしています。

由良町も農家の高齢化が進み、廃園となっていく園地も多くなり、由良の産地を守るためにも、これからどう対応していくかが今後の課題です。

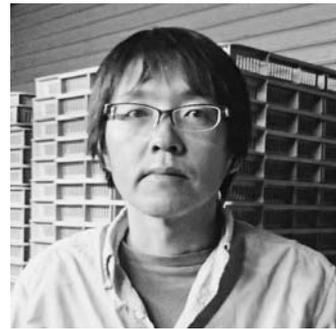
もう一つの課題は、新しいみかんの品種の選択です。温州みかんでは、中生に注目して系統はどれにするか、晩柑では伊予柑に替わる品種はどれがいいか、なかなか答えを出せずに頭を悩ませています。

高齢化が進むなかでも、同世代の後継者が少ないなりにいるので、これからもこの仲間たちと切磋琢磨しながら一緒に頑張っていきたいと思います。

# 農業に懸ける想い

## こだわり栽培で収益アップ！ ～人とのつながりを大切に～

田辺市 青年農業士  
峯 泰 弘



### 1. はじめに

私は、高校を卒業してすぐに就農しました。就農当時、父が病気であまり仕事ができなかったため、数種類あった晩柑と作業効率の悪い早生みかんの畑を梅に改植し、さらに極早生の宮本早生を数年かけて、日南1号とゆら早生に改植、高接ぎをしてきました。

### 2. 農業への想い・取り組み

平成14年から日南1号のマルチと点滴灌水を使った高品質生産に取り組んでいます。

最初の頃、失敗ばかりでしたが、数年前から『どこよりも美味しいミカンを作ろう！』とJA紀南管内でミカンの高品質栽培に取り組む生産者組織「こだわりグループ」を結成しており、そのこだわり栽培の中からさらに厳選された紀南ブランド『天』の生産グループに入り、安定した収益を上げられる様になってきました。

ですが、まだまだ課題は多いです。

ここ数年、一人では仕事をまわす事ができず、地域で農業をしている先輩や友達に手伝ってもらうことが増えてきました。私の方も時間がある時は手伝いに行くようになりました。

一人で仕事をしている時には気づかなかった事もあり、面白いし、勉強にもなります。

農業は個人経営ですが、周りとの関わりはとても大事だと感じています。

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
うめ	150 a
みかん	50 a
スモモ	8 a
○労働力	
家族2人（私・母）	
臨時雇用	3人

経営はしんどいことも多く、先のことを考えると頭の痛いこともあります。周りの農業をしている人達に支えられ、自身も支えながら、今後も人とのつながりを大切にしていきたいと感じています。



マルチと点滴灌水



摘果作業

# 農業に懸ける想い

## あらためて今思うこと

那智勝浦町 青年農業士  
松本 安弘



### 1. はじめに

私は和歌山県農業大学校を卒業後、2年間の派米研修を経て、平成11年に就農しました。

就農時、大工等のアルバイトをしながら祖父の茶畑40aの栽培から始めました。その後、地元で茶業を営んでいる「両谷園」の創業者榎本静夫氏と出会い、親戚の茶畑を引き継ぎ、規模を拡大することで、茶の栽培を充実させました。また、普及指導員の勧めで露地野菜を始めたりすることによって、専業農家としての意識が高まりました。

### 2. 農業への想い・取り組み

色川地区で農薬を使用せず、お茶作りを行っていた榎本氏の下に集まったメンバーと共同で、両谷園を引き継ぎ、法人化をして4年目を迎えました。その中で私が製茶加工の担当をしていた時、白浜町(旧日置川)で茶業をしている上村誠氏と知り合い、製茶技術の原点でもある「手もみ技術」を習い、先進地の静岡県での研修にも参加する事で、茶業に携わる楽しみや難しさを教わっています。

露地野菜では減農薬栽培に取り組み、主に公設市場へ地場野菜の「くろしお熊野やさい」として夏場はトウモロコシ、キャベツ、ナス、冬場はハウレンソウ、水菜、人参等を出荷し、道の駅や直売も試みています。飲食業をしている友人もいることからミ

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
茶	100 a
露地野菜 (ナス、トウモロコシ、葉物等)	35 a
シキミ	20 a
○労働力	
家族2人 臨時雇用1人	

ニ野菜の栽培も小面積ながら栽培しています。

自分自身で農業を始めた年、何も出来ないことを実感。それから失敗や収穫する喜びを知り14年目、家族の支えや周りの方々とのご縁などが有り、現在まで農業に携わることができています。

そして新しく家族が増えたことによって、あらためて農業経営ということも意識し始めました。まだまだ失敗し、新しく学ぶこともたくさんある中で農業の奥深さを実感しています。

これからは自身の農業をしっかり作っていくと共に、継続した地域農業をしていくにはどういったことが必要なかを意識しながら、畑の中と外で考えていきたい。

機械での  
茶摘み風景



ナスの  
栽培ほ場にて

# 県農業大学校学生です。

～ 1年生の自己紹介&近況報告（4月からは2年生）～



秋 月 日 向

私の出身は上富田町です。趣味は読書と釣りで  
す。今、農業大学校でバラを中心に実習しています。  
後1年という短い期間ですが将来のためにも一  
生懸命頑張っていきたいです。



井 上 拓 也

出身はかつらぎ町です。  
趣味はパソコンをする事と、音楽鑑賞です。  
将来は農業関係に就職したいです。



落 合 裕 也

出身は和歌山市です。私は父の転勤の都合で、  
小学校6年生から高校3年生までの約8年間を鳥  
取で過ごし、高校では保育の勉強をしていたので  
すが、部活でガーデニング部に入っていたことから  
農業に対する興味を強く持つようになりました。  
将来は和歌山県で就職するつもりだったので、  
和歌山県農業大学校への進学を決めました。  
あと1年と少しの間にたくさん農業について学  
びたいと思っています。



勝 本 卓

出身は南高梅で有名なみなべ町です。  
農大では果樹コースを専攻しており、卒論では  
梅の挿し木について取り組もうと考えています。  
高校の時に弓道をしていたので、最近また弓道  
がしたいなと思っています



川村海渡

出身地は海南市下津町です。趣味は映画観賞と生物観察です。農大では野菜を専攻しています。卒業論文のテーマでは、ナスの接ぎ木試験に取り組もうと考えています。



清水祥弘

出身地は田辺市で梅やミカンが盛んです。趣味は磯釣りやツーリングなどです。農大では野菜コースを専攻していて、卒論ではトマトの試験に取り組みたいと思っています。将来は、祖母が農業を1人でしているので、その後を継ぎたいと思っています。



栗栖那実

私は和歌山市出身で、周囲に畑や水田がない所で育ちました。実家は非農家です。趣味は空手と音楽鑑賞です。音楽では洋楽が好きで、好きな歌手はOne DirectionとBackstreet BoysとBoys II Menです。空手は琉球空手を地元の道場で約9年間習ってきました。農大では果樹を専攻しています。特にみかん栽培に興味があります。卒業後は、農産物の加工関連の仕事をしたと考えています。



住大万寿郎

大阪府茨木市出身です。今は和歌山市中筋日延に住んでいます。母親の実家は和歌山市で米や野菜類を栽培する専業農家です。趣味は、野球を筆頭としたスポーツや機械を触ったり、いじったりすることです。高校卒業まで野球をやっていました。農大では、野球部に入っています。専攻は野菜コースです。卒論は先輩がしていたトマト低段密植栽培を引き継いでいこうと思います。卒業後は、農業関係の仕事か機械関係の仕事か、機械の専門学校に行こうかと考えています。



谷口 義典

私の出身は紀の川市粉河で家ではモモとカキを主に作っています。他にも、自家消費用に野菜なども作っています。

農業大学校では果樹コースを専攻しており、1年生のリーダーをしています。実習では、モモ、スモモ、ナシを主に担当しています。

私は普通科の高校出身なので、農業高校出身の学生が多い中で、勉強についていけるか不安でしたが、先生や講師の方がわかりやすく説明してくれています。

農業については、まだまだ知らない事が多いので、残り1年間でもっと学びたいと思います。



永田 美奈

私がこの和歌山県農業大学校に入学した理由は、高校の時に野菜や果樹や草花を育てる楽しさを知ったからです。

入学して私が花きを専攻したと知っている近所の方にはいろいろ質問されます。そのアドバイスができるのもすごく嬉しいので、これからも花きだけでなく、野菜や果樹の勉強も頑張っていきたいと思います。将来は農業関係の仕事はしませんが、趣味としてガーデニングやプチ菜園を作りたいと思っています。



玉置 侃也

私の出身地は印南町です。果樹を専攻しています。趣味はバイクや車に乗って、ドライブやツーリングをすることです。

私の家では、主に梅と米を栽培しています。将来の夢は、この農業大学校を卒業した後、家を継いで、いろいろな作物に挑戦したいと思います。



中村 昌暉

出身は田辺市です。趣味は映画観賞です。現在果樹コースで梅班に所属しています。将来は農業大学校で学んだことを活かし、JAの営農指導員になりたいと思っています。



林 省伍

有田川町出身で、果樹を専攻しています。趣味は読書です。将来は、この学校で得た知識を活かせる様に努力していきたいと思っています。



私の家は農家ではありませんが、農業に興味があつて、農大に入り花を専攻しています。

いろんな資格の勉強や、実際に花の管理もして実習も大変ですが、楽しみながら実習を行っています。

将来は農業をやるかはまだ分かりませんが、農業をやろうと思った時の為に知識を沢山身につけたいと思います。



農大で野菜を専攻しています。

野菜では主にイチゴ栽培に取り組んでいます。

有田川町に住んでいて、家はみかん農家なのですが、野菜の勉強もしたいと思い、野菜を専攻しています。



私は田辺市出身です。実家は梅とみかんの栽培をしています。

今は果樹コースで勉強をしています。

あと1年の中で多くの事を学んで、将来、家で農業を継いだ時に役立てる事ができるようにしたいと思っています。



出身は紀の川市です。

農大では野菜コースに入っていて、イチゴを担当しています。

趣味は釣りで休日になると友人と一緒に釣りに出かけています。

将来は農大で学んだ事を活かして、JAの営農指導員など、農業関係の仕事につきたいと思っています。



私の出身は、みなべ町の東岩代です。  
趣味はパソコンと読書（特にマンガ）です。  
私の出身地では、2月に南部梅林が開園されます。梅の花がとてもきれいで、花見にとっても良い行事なので、一度来てみて下さい。



私の出身地はみなべ町晩稲です。農大で果樹を専攻しています。みなべ町は梅の産地で、自宅も梅農家なので、この農業大学校でいろいろな事を学び、梅だけでなく、野菜や花の生産なども勉強したいと思っています。

趣味はバイクに乗る事で、県内のツーリングコースをよく走っています。



和歌山市の紀三井寺出身です。実家は大根・人参・小松菜を栽培する専業農家です。

趣味はラグビーとサッカーです。高校ではラグビーと農業クラブに入っていました。農大ではバスケットボール部に入っています。

専攻は野菜コースです。卒論はシシトウの台木試験に取り組もうと考えています。卒業後は農業関係の仕事をしようと思っています。



僕は紀の川市（旧桃山町）出身で、農大では果樹を専攻しています。桃山町は桃の産地で、町中に桃が栽培されています。

今まであまり桃に直接触れる事はなかったので、農大では、卒業論文で桃の試験に取り組もうと思っています。

農大に入学してもうすぐ1年経ちますが、まだまだわからない事や、初めて体験する事が多々あるので、これからも知識、技術を高めていき、良い卒業論文を作る事ができる様に頑張りたいです。

# 試験研究レポート

REPORT

## 通電性のある簡易舗装資材を用いた電気柵の防草対策

和歌山県果樹試験場 環境部 主査研究員 法眼利幸

### 1. はじめに

電気柵は動物に電気ショックの痛みを与え追い払う、侵入防止効果の高いものですが、電気が電線に触れた動物体内 → 土壌 → 電気柵本体のアースまで、きちんと流れないと効果は発揮されません。コンクリートやアスファルト上では通電性が低いため、電気柵の効果は失われてしまいます。また、繁茂した草木に電線が接触すると漏電し効果は低減しますので、日ごろ草刈り等の管理に労力がかかります。

そこで、簡易舗装資材である鉄鋼スラグ<sup>※1</sup>の通電性と防草性を明らかにして、電気柵管理への活用を検討しました。

※1 転炉スラグ・高炉水砕スラグ・高炉セメントB種の混合物

### 2. 試験研究の内容と結果

#### (1) 施工

鉄鋼スラグを固めるためには、散水と締固め用機械による転圧作業が必要になります(図1)。今回は、カタマ<sup>®</sup>G(新日鐵住金社製)を10cm厚の1m幅で施工しました。施工費用は資材費込み1㎡あたり約500円<sup>※2</sup>で、コンクリート路面工のおよそ5分の1と安価ですが、資材は重い(約2t/m<sup>3</sup>)ため、搬入路のない場所での施工は難しいという注意点もあります。

※2 試算は新日鐵住金社によるもので、輸送距離や施工条件等により変化します



図1 散水と転圧作業

#### (2) 通電性

鉄鋼スラグ上で電気柵に接触した場合、イノシシ等の害獣を追い払える基準<sup>※3</sup>以上の電圧が得られました。さらに鉄鋼スラグを厚くすると、電圧は低下する傾向がみられました。

※3 3,500ボルト：「和歌山県農作物被害対策マニュアル」電気柵設置のポイントより

#### (3) 防草性

施工から1年間調査しましたが、鉄鋼スラグ上に草木は全く生えませんでした(図2)。ただし、土壌との境付近で鉄鋼スラグの薄い部分には、草木が生えました。

#### (4) 効果

調査地では、これまでイノシシやシカの侵入は全くみられていません。



図2 草木の繁茂状況  
(2013年8月27日)

### 3. まとめ

鉄鋼スラグは高い防草性と通電性を有することが分かりました。電気柵に併せてスラグによる舗装を付加すると草刈り作業を省力化することができ、柵の維持管理に非常に有効です。

# 試験研究レポート

REPORT

## スターチス・シヌアータの新しい電照栽培技術開発

農業試験場 暖地園芸センター 園芸部 主任研究員 伊藤吉成

### 1. はじめに

近年、スターチスの経営は、販売単価の低迷等により厳しくなっています。収益を向上させるためには、比較的高単価が望める年内から春の彼岸までの収量を増やすことが一つの方法です。

スターチス・シヌアータは、長日条件で開花が促進されますが、暖地園芸センターでは、電照する光の波長によって切り花本数や品質が変わることを発見し、LED 等新光源を使った電照栽培による増収技術の確立に取り組んでいます。

### 2. 試験研究の内容・結果等

まず、スターチスの栽培株に UV-A (315 ~ 380nm)、青色光 (400 ~ 500 nm)、緑色光 (500 ~ 600 nm)、黄色光 (500 ~ 700 nm)、赤色光 (600 ~ 700 nm) 遠赤色 (700 ~ 800nm) を電照して切り花本数や切り花品質への影響を調べました。その結果、切り花本数は特に黄色から赤色の波長域の光で増加することが分かりました (図1)。一方、切り花長は、青色および遠赤色で無処理区より長くなりました (データ省略)。

赤色光と青色光を混合して照射したところ、赤5：青5の割合で照射すると赤色光のみの場合と同等の切り花本数が得られ (データ省略)、かつ切り花長と切り花重は青色光のみ照射した場合と同等になりました (図2)。



電照試験の様子

### 3. 実用化に向けた取り組み

これまでの試験結果から、赤色光と青色光を5：5の比率で混合照射できる光源が望ましいと考えられますが、実用性を考慮し、比較的安価で安定的に入手可能な光源として赤色と青色の波長域の光を含む蛍光灯とLED電球の中から色調の異なるものを比較したところ、昼白色や昼光色のLED電球で増収効果が高いことが分かりました (データ省略)。

現在、電照栽培による増収技術の確立のため、昼白色LED電球を使って、①増収効果を得るのに必要な光のエネルギー量 (強さ)、②最適な電照時間および時間帯、③電照の開始時期と打ち切り時期などについて試験を進めており、現地での実証を経て2015年作からの実用化をめざします。

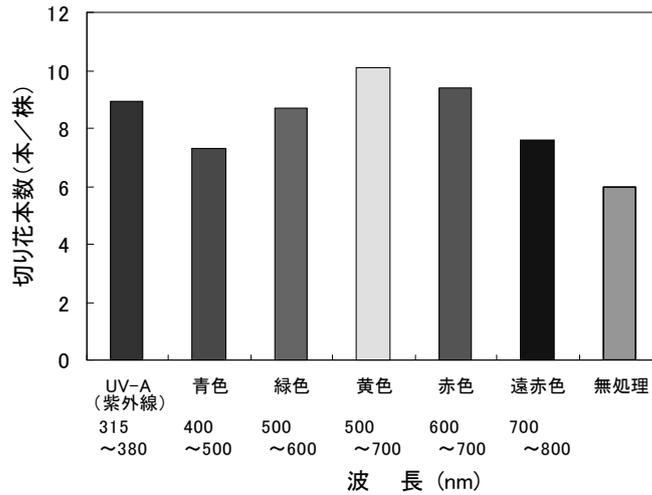


図1. 異なる波長の光が切り花本数に及ぼす影響  
 品種:サンデーバイオレット  
 2010年12月26日~2011年3月31日までの切り花本数  
 光量子束密度  $1 \mu \text{mol} \cdot \text{m}^{-2} \cdot \text{s}^{-1}$  で終夜電照

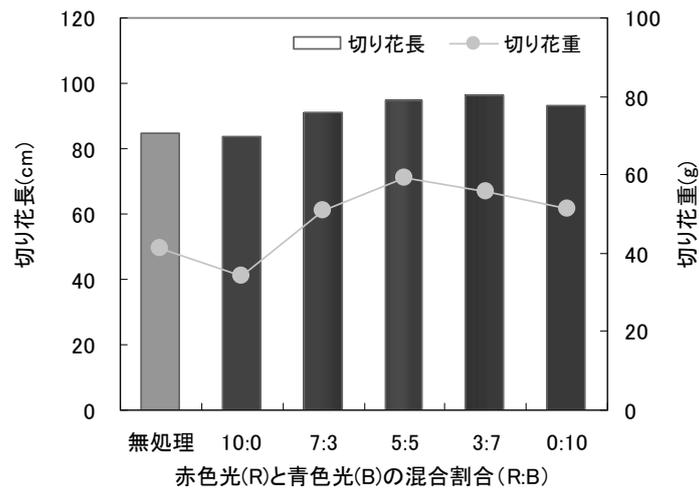


図2. 赤色光と青色光の混合割合と切り花品質  
 品種:サンデーバイオレット  
 放射照度  $0.16 \text{W} \cdot \text{m}^{-2}$  で終夜電照



市販されている様々なLED光源。  
 波長、明るさ、光の広がりの違いで、  
 多くの種類が存在し、価格差も大きい。

# 試験研究レポート

REPORT

## 牛の採卵における人工授精適期について

畜産試験場 大家畜部 研究員 高田 広達

### 1. はじめに

近年、牛に歩数計を装着して、その歩数から牛の発情開始やその他の行動を把握できるシステムが開発され、当試験場でも平成24年度に㈱コムテックの「牛歩 Lite」を導入しました。そこで今年度「牛歩 Lite」を用いた試験をおこないましたので、その結果を報告します。

### 2. 目的

受精卵移植（ET）技術による熊野牛の改良と増産を促進するには、優秀な牛に過剰排卵（SOV）処理後、人工授精および採卵を行い、できるだけ多くの体内受精卵を回収する必要があります。SOV処理に対する反応性は個体差が大きく、反応する卵胞の数によって排卵のタイミング、ひいては人工授精適期が異なる可能性があるため、採卵における授精適期について検討しました。

### 3. 方法

SOV処理後、従来の定時授精採卵プログラムにより採卵をおこなう対照区と無線送信歩数計（牛歩 Lite、コムテック）の授精適期を指標に人工授精して採卵をおこなう試験区の2区を設定し、採卵成績を比較しました（図1）。黒毛和種雌牛5頭を供試し、対照区から試験区あるいは試験区から対照区の順に採卵をおこない、延べ10回の採卵をおこないました。

day	-7	~-10	...	-3	...	0	1	2	...	4	...	11
対照区												
	9:00	CIDR in				FSH 5AU	FSH 3AU	FSH 2AU CIDR out PGF2 $\alpha$ 0.5 mg		GnRH 50 $\mu$ g		採卵
	16:30		GnRH 25 $\mu$ g		FSH 5AU	FSH 3AU	FSH 2AU PGF2 $\alpha$ 0.25 mg			人工授精		
day	-7	~-10	...	-3	...	0	1	2	...	3~5	...	11
試験区												
	9:00	CIDR in				FSH 5AU	FSH 3AU	FSH 2AU CIDR out PGF2 $\alpha$ 0.5 mg				採卵
	16:30		GnRH 25 $\mu$ g		FSH 5AU	FSH 3AU	FSH 2AU PGF2 $\alpha$ 0.25 mg				歩数計 による 人工授精	

図1 採卵スケジュールの比較

## 4. 結果の概要

試験区で歩数計の示す授精適期は供試牛 5 頭すべてで定時プログラムより早くなりました（表 1）。回収卵数および正常卵数に有意な差は認められませんでした（表 2）。試験区の A ランク卵の割合が有意に低くなりました（表 3）。試験区は GnRH を投与していないため、今後は GnRH と歩数計の併用を検討する必要があります。

表 1 試験区の AI と定時 AI プログラムの時間の差

供試牛	A	B	C	D	E
時間の差	-19.5	-19	-10	-18.5	-1

(単位：時間)

表 2 採卵成績への影響

区分	供試頭数	回収卵数	正常卵数
対照区	5	12.4 ± 11.5	6.2 ± 5.8
試験区	5	15.6 ± 12.2	5.8 ± 3.8

表 3 回収卵の品質への影響

区分	回収卵数	回収卵の品質別個数 (%)			
		A	B	C	変性 + 未受精卵
対照区	62	11 (18%) a	15 (24%)	5 (8%)	31 (50%)
試験区	78	3 (4%) b	16 (21%)	10 (13%)	49 (63%)

a-b : p<0.01



牛歩 Lite 本体 (受信機)



牛歩 (送信機)

### 【参考 牛歩 Lite について】

牛歩 Lite1 台で牛歩 5 頭の歩数を管理できます。

上部 3 つの数字は左の数字が過去 24 時間の合計歩数、中心の数字が過去 72 時間の 24 時間平均歩数、右の数字がその商（過去 24 時間の合計歩数 / 過去 72 時間の 24 時間平均歩数）を示しています。発情すると歩数が増加するため、上部の右の数字が大きくなり、下段のランプが点灯します。写真は 9 番の牛が発情の可能性のあるということです。

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 平成 25 年度和海地方農業士会活動ダイジェスト

和海地方農業士会連絡協議会事務局

### 1. 総会及び講演研修会を開催

和海地方農業士会は、4月16日にガーデンホテル紀三井寺において定例総会・研修会を開催しました。

総会は会員66名の出席のもと、平成24年度活動経過及び25年度活動計画とそれに伴う決算、予算が議案書のとおり承認されました。

総会終了後には、地元農産物の価値を再考し、販売や経営の改善に資するために「和産和消と六次産業化について」と題し、株式会社あえもんの児玉敏昭社長から講演をいただきました。

講師の児玉氏からは、地元農産物の良さを知ってもらうために地方からの情報発信が必要で、知ってもらうことにより地域やそこで採れる農産物の良さが伝えられるとのアドバイスがありました。

参加者らは海草地域は消費地にも近く、地元農産物のPRに積極的に取り組む価値があると再認識していました。



株式会社あえもん 児玉社長による講演

### 2. 女性部会が「とくしまマルシェ」で直売対応を研修

和海地方農業士会女性部会では、7月28日、地域おこしと販売技術の手法を研究することを目的に徳島市内のボードウォークで開催されている「とくしまマルシェ」を現地研修しました。

「とくしまマルシェ」は財団法人徳島経済研究所が呼び掛け、地元の農業関係者、行政機関、金融機関、流通業者などが議論し、提案されたイベント。とくしまマルシェ実行委員会事務局が運営を行い、市内の新町川沿いのボードウォークと親水域を舞台に、毎月最終日曜日に開催されています。

新町川沿いには、各々出展者が白いパラソルを揚げ農産物等を販売し、水面には遊技用のカヤックが浮かぶなど日本とは思えない雰囲気が醸し出されていました。マルシェでは農産物の生鮮ゾーン、特産農産物を原料とする加工品ゾーン、直接食べることもできるスイーツ、肉・魚ゾーン等60店を超える店が立ち並び、白いパラソルの下にはこだわりの品々がマルシェの刻印が入った箱などに入れられ、販売されていました。

マルシェ視察後は徳島市一番の景勝地「眉山」へ登り、徳島での研修を終えました。

女性部会員には、農産物直売所や小売業者へ直接販売する者も多く、今回の研修を今後の販売活動にいかせていけるものと考えています。



新町川両岸にお店が建ち並ぶ



白いパラソルがマルシェの雰囲気演出

### 3. 楽しく儲かる農業の実現に向けて研修会（和海地方農業生活連絡協議会）

和海地方の農業関係団体で組織する和海地方農業生活連絡協議会では県と協力し、9月6日、紀美野町総合福祉センターで農業の良さとやり方次第で儲かることを再認識するために農業経営研修会を開催しました。

今回の研修会の講師杉山経昌氏は1990年に外資系通信機器の会社を退職後、宮崎県綾町に就農。現在は、施設ブドウの直接販売を主とした農業を経営し、サラリーマン時代のスキルを活かし、低コストで労働生産性の高い超効率的農業を実践されている農業者です。就農から現在の農業経営までを三冊の本に著すとともに、日本農業経営大学校の特別講義の講師も務められ、後進の育成にもご活躍されています。

講演では、『農業は専業でなるべく小規模な経営を行う。（規模の不足分は手取り単価の高価格化と劇的な経費圧縮で収益を確保する。）』『所得ではなく幸せを最大化する。（ゆとり・自然との調和・人とのネットワークを大事に。）』『今日の私は昨日の私ではない。（日々改善を怠らず、現状に留まらず。）』等の点をわかりやすく紹介いただきました。

会員たちの自己の経営を見直す良い機会となるとともに、新たに農業に取り組む人達にとっては良い目標となったのではないのでしょうか。



杉山講師による講演



講演に聴き入る会員達

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 那賀地方の農業士会活動について

那賀地方農業士会事務局

### 1. 紀の川市産業祭りへの参画

#### 【紀の川市農業士会 会長 永長 豊英】

平成 25 年 11 月 24 日、紀の川市貴志川体育館と貴志生涯学習センターで紀の川市産業祭り & 食育フェアが開催されました。

市の基幹産業である農業に関する団体や企業などが出展するイベントで、市内外の消費者に対して地域生産物や活動内容に対する認識を高めていただくため、紀の川市農業士会では『猪汁のふるまい』と『特産花きの展示販売』を行いました。

#### ①猪汁のふるまい

全国的に鳥獣被害が大きな問題となっています。紀の川市でも鳥獣被害が多発し、平成 22 年度から少しずつ減少していますが、平成 24 年度の被害額の約 70%はイノシシ、次いでアライグマが約 15%を占めています。



猪汁のふるまい

このような状況を踏まえ、昨年度に引き続き、猪汁のふるまいを行いました。大好評で開始早々から行列ができ、400 食の猪汁が昼頃までには終了しました。

この猪汁のふるまいで、鳥獣被害の関心が高まり、猪肉消費へと繋がりイノシシ被害が減少することを願っています。

#### ②花き類の展示販売

会員が生産した特産物のシクラメン、キンギョソウ、スカシユリ、スプレーマム、大菊、ガーベラ、カーネーション等を市場価格より安価で展示販売しました。より多くの消費者に紀の川市の花きをアピールし、またどんな花が好まれるか消費志向を見極め生産の参考にするなど、今後の花きの消費拡大につなげることが出来ればと考えています。



花き類の展示販売

今年度の紀の川市産業祭りは食育フェアと同時間開催されたため、より多くの人で賑わっていました。農業士会を始め 4 H クラブやその他農業団体の出店もあり、農産物の PR をはじめ有意義なイベントであったと思います。

## 2. 那賀地方農業士協議会女性部会「カトレア会」の活動

### 【カトレア会 会計 野尻久江】

毎年、カトレア会の活動は3月の総会での活動報告と計画の検討から始まります。いくつかある活動の中でフラワーアレンジメント講習は、農繁期ですがお互いの近況や情報交換を兼ねたほっとするひとときです。



会員が講師を務め、アレンジメント講習

12月には振興局農業振興課担当職員から「新規就農者への支援対策と那賀地方の状況について」説明を聞き、皆で話し合う機会を持ちました。

近年、農業従事者の高齢化で、耕作放棄されている田畑が目立つようになりました。

その原因のひとつは後継者不足ですが、県の調査によると昨年度に比べて県内新規就農者数が増加していますが、若年層で新規参入する者は地域のつながりが弱く、馴染むのに時間が掛かる傾向で、私の身近でもそうした事情から就農を残念した事例がありました。この場を通じてその対策には関係者の連携がより重要となると会員相互に認識を新たにしました。



担い手対策について研修

1月には大阪府の茨木市の農事組合法人「de 愛・ほっこり見山の郷」、岸和田市のJAいずみの直売所「愛菜ランド」を視察研修。会員12名と市、県振興局職員が参加しました。

「de 愛・ほっこり見山の郷」は竜王山などが連なる美しい景観や田園風景が残る自然豊かな大阪近郊の緑地にあります。平成13年に農事組合法人として、地元食材にこだわってみそ作りからスタート。現在、市内32校の学校給食やスーパー等での販売も行い、需要増に伴う原料の大豆仕入れから近隣地域を巻き込んだ活動に発展。年間を通じてイベントを数多く行うなど、運営に携わっている女性がお互いに無理をせず、少ない空き時間を互いの工夫でうまく活用し協力しあいながら生き生きと活動している姿が印象的でした。

「愛菜ランド」では各自で場内を見学。午後3時を過ぎているにもかかわらず、多くの買い物客で賑わっている様子に驚きました。

2カ所を見学して強く思うのは、『適材適所』『適地適作』です。

さて、我が家・地域にどう生かせばよいのやら。



de 愛・ほっこり見山の郷での研修



# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 伊都地方農業士会の活動について

伊都地方農業士会連絡協議会事務局

### 1. 総会・研修会の開催

5月13日、伊都地方農業士連絡協議会〔新会長：海掘哲司氏（九度山町）〕の総会が、橋本市の大倉一郎経済部長や JA 紀北かわかみの下林茂文組合長等を来賓に迎え、伊都振興局の会議室で開催され、総会では全ての議案が承認された。

総会後の研修会では、株式会社早和果樹園の秋竹新吾氏から、「農業の六次産業化による地域活性化に挑戦」と題して、六次産業化に至までの経緯や販売戦略について講演がなされ、出席した会員からは活発な質問が出ていた。



西垣会長のあいさつ



(株) 早和果樹園の秋竹氏の講演

### 2. 現地研修会の開催

12月4日、伊都地方農業士連絡協議会では、会員の技術研鑽と交流を図る現地研修会を橋本市市協ほ場で開催し、園主の小林文雄氏からブドウや柿の栽培の現状、消費者への直接販売をしている取り組みについて説明を受け、参加者相互に栽培管理等について意見交換を行った。



現地研修



小林氏のブドウ園

### 3. 県外研修の開催

1月21日、伊都地方農業士連絡協議会は会員の資質向上を図るため、生活協同組合コープこうべ六甲アイランド食品工場と1年中色々なフルーツを楽しむ株式会社淡路島フルーツ農園で視察研修を行った。

コープこうべの食品工場では、パン類、めん類、とうふ等の製造工程の見学を行った。商品生産は高度にオートメーション化され、工場の食品廃棄物は熱源（電気として工場で利用）、飼料に96%も再利用し、リサイクルにも力を入れていると説明を受けた。

淡路島フルーツ農園では、代表取締役の中谷学氏から、脱サラ後に農業を始め、観光農園を平成10年から開始した経過や、最近では平成24年2月から農園カフェ『果の実』をオープンし、飲食サービスや加工品の販売も手掛けていることや、淡路島という立地と雇用労力をうまく活用して経営は順調であると説明を受けた。これからは人材の育成と確保、規模拡大と内容の充実と新たな事業展開への思いも熱く語って頂いた。

今回の研修では会員相互の交流が図られたようで、今後の農業士活動に活かして頂きたいと考えている。



食品工場見学



食品工場製造工程



農園カフェで中谷学氏の説明



観光農園のイチゴ

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 有田地方農業士協議会の活動について

有田地方農業士協議会事務局

有田地方農業士協議会では、生産技術の向上と農業経営の発展を目指し、講演会や現地研修会を開催しています。また、各市町の農業士会も様々な活動に取り組んでいます。

### 1. 販路拡大、輸出等に関する研修会の実施 (有田地方農業士協議会)

平成 25 年 7 月 12 日、温州みかんのかん水技術のポイントの研修、自家生産物の販路拡大と輸出の可能性を検討を目的に、県果樹試験場で研修会を実施。農業士会員と関係者あわせて約 70 名が参加した。

研修会ではまず、果樹試験場栽培部担当研究員より「温州みかんの望ましい水分管理とマルチ栽培のポイント」について説明を受けた。昨年は、春先より干ばつ傾向で参加者はかん水に苦労させられており、「かん水の参考になった。」「今年度のような異常気象時のきめ細かい対処法等の研究も進めて欲しい。」などの意見が出た。

次に、県食品流通課担当職員から「『おいしい！健康わかやま』イメージ定着への取り組みと有利な販路開拓」と題して講演を受け、意見交換を交えながら研鑽を深めた。

参加者からは「外国もひとつの販路になると思う。」「有田はみかん産地だが、和歌山の他の産物と一緒に販売してくれているのはとてもうれしい。和

歌山全体で動いてくれるのは、とても良いことだと思う。」などの意見が出た。



県食品流通課の講演

### 2. 4 Hクラブとの合同現地研修会の実施 (有田地方農業士協議会)

平成 25 年 9 月 9 日、有田管内の優良事例について学び、会員相互の交流をはかることを目的に、有田地方 4 Hクラブ連絡協議会と合同で有田川町金屋地区区内で現地研修会を実施。農業士会員と 4 Hクラブ員あわせて 64 名が参加した。

当日は、温州ミカン SS（スピードスプレーヤ）防除圃場、ブドウとナシ等落葉果樹の複合経営、温州ミカンの園地改造、スプレーギク栽培圃場の 4 事例について研修が行われた。

SS 導入は有田管内では数少ないが、今回の視察園地では SS 作業道を軽トラックも入れる道幅とし、防除作業に加えて施肥・収穫作業の軽労化を実現していた。スプレーギク栽培圃場でもハウス内で

の自動防除機に加え、出荷調整段階でも重量選別機やフラワーバインダーが導入され、省力化がはかられていた。

落葉果樹の複合経営では、観光ブドウ・ナシ狩りに加え、インターネットや直売所などの販路開拓の取り組みについて話を聞いた。園地改造では段々畑50aをフラット化され、植栽品種の統一が図られ、省力的に作業のできる園地づくりを実践されていた。

参加者からは「多岐にわたる品目についての研修で良かった。」「地域内でも生産現場だけではなく、関連産業の現地も見てみたい。」などの意見が出ていた。



温州ミカン SS 防除圃場

### 3. 株式会社農業総合研究所への県外視察の実施 (広川町農業士会)

平成25年6月28日、同年4月の総会でご講演頂いた(株)農業総合研究所代表取締役 CEO 及川智正氏の案内でスーパーマーケット阪急オアシス桃谷店内にある同社の農産物売り場「都会の直売所」と紀の川市にある農産物集荷場の視察を実施し、広川町農業士会会員15名が参加した。

同社の農産物販売流通事業では、生産者自身が集荷場に農産物を持ち込み、自ら店頭販売価格を決め、売り場(都会の直売所=契約しているスーパーマーケットの各店舗に設置)を選択するシステムとなっている。

阪急オアシス内の売り場では、担当者から「出荷の翌日には店頭に並ぶので、お客様から農産物が新鮮でみずみずしいと評価頂いている」等の話があった。参加した会員達は、店内の商品との価格を比べたり、実際に買って味わうなどしていた。

集荷場では、生産者自身が販売価格や出荷先の店舗を決め、出荷するまでの手順について説明を受けた。紀の川市の集荷場だけで、登録生産者数1,000名に達し、常時200名ほどが出荷しているとの話に驚きの声が上がった。

参加者から荷姿や売価の決め方等、実際に出荷することをイメージした具体的な質問が出たほか、最後に及川氏からは「どのような販売方法でも、大切なのは生産者の顔が見えること」とのアドバイスを頂いた。



阪急オアシス店内の「都会の直売所」

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 花育活動と研修会で、地域貢献と相互の研鑽を図る

日高地方農業士会事務局

### 1. 花育活動

平成 25 年 5 月 16 日、日高地方農業士会（長岡均会長）と日高地方花き連合会（中野真行会長）は共催で「花育」活動を実施した。

この活動は、日高地方が全国有数の花の産地であることを子供たちに知ってもらおうと始めたもので、今年で 5 回目になる。

花き連合会会員から、スターチスや宿根カスミノウ、カーネーション等約 1 万本の切り花を無償で提供していただき、各市町農業士会の役員らが日高管内の 33 小学校（支援学校含む）へ花束（325 束）とパンフレット（全児童分）を届けた。

また、7 小学校（御坊市立名田小学校、美浜町立松原小学校、印南町立稲原小学校、みなべ町立上南部小学校、岩代小学校、日高川町立和佐小学校、三百瀬小学校）では贈呈式が行われ、全校生徒が見まもる中、両会員が生徒代表に花束を手渡し、花の説明などを行った。



贈呈式の様子（名田小学校）



児童からのお礼（岩代小学校）

### 2. 県外マーケティング研修（女性部会）

平成 25 年 7 月 30 日、日高地方農業士会女性部会（堀井博代部会長）16 名が、大阪梅田のグランフロント大阪でマーケティング研修を実施した。

当日は、7 階の高級感溢れる会員制のナレッジサロン内会議室で、株式会社フラン代表取締役竹川智子氏から「うめきたで見つける売れる商品づくりのヒント」と題し、ご講演頂いた。

竹川氏は、売れる商品づくりについて、100 年以上地元根付いている老舗では、定番が変化し続ける柔軟さと新たな発想やユニークさを兼ね備えた商品を販売し続けていることを例に挙げながら説明され、さらに商品の魅力を伝えるには、出来たてホヤホヤで五感に訴えるシズル感、食べてみたくなるワクワク感、相手と話しながら量り売りするライブ感などが必要で、ターゲットとする顧客層に合わせてパッケージを変えることも大切と指摘された。

また、田舎の直売所に比べ都会のスーパーでは、新鮮でリアルに見える売り場を設け、常にお店の魅力を発信しようと努力している点に違いがあると指摘され、インターネットの普及で情報が早くなったが、ブームはすぐ去ってしまうため、『作り手の個性や工夫をいかに伝えるかが大切』と強調された。

最後に、最近の傾向として、今ある商品を用途に分けて提案、小型化、携帯化、簡便化し、健康もプラスしたものが売れているとされ、今ある商品が新しい発想と工夫次第で売れる商品となることを教えて頂いた。

午後には部会員たちは、竹川氏が紹介されたお店をグループに分かれ、自分達で歩いて調査した。「実際に自分の目で見る事ができて、よくわかった。」「農産物が安く売られていたので、驚いた。」「野菜の陳列の仕方がとても参考になった。」などの感想が聞かれ、実のある研修会となった。



熱心に講演を聞く部会員



ロート製菓（旬穀旬菜）シティーファーム

### 3. 管内現地研修会（女性部会）

平成 25 年 10 月 29 日、日高町で日高地方農業士会女性部会が現地研修会を開催し、15 名が出席した。

最初に日高町公民館で日高町参事の西岡建人氏から町の概要を説明して頂いた。部会員の二葉美智子氏が女性農林漁業者研修（中国四国ブロック）に出席した内容を報告した。

次に、部会員の畑万知子氏の菊の圃場を見学し、菊の栽培管理について話を聞いた。

最後に、日高町原谷に移動し、9月にオープンした「古民家カフェれん」を視察した後、原谷集会所で黒竹民芸品づくりを体験した。



菊の圃場を見学



黒竹民芸品づくり体験

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 西牟婁地方農業士会の活動について

西牟婁地方農業士会連絡協議会事務局

### 1. 経営研修会（西牟婁地方農業士会）

平成 26 年 2 月 12 日（水）に経営研修会を開催、会員や関係者など約 70 名が参加した。

#### 【講演会】

会員は梅・みかんの生産農家が多く、本年度の研修会では田辺市梅振興室の北川室長から「梅の販売促進と販売情勢」について、①量販店での青梅の販売の現状、②梅の消費 PR 活動梅もぎ体験の受入、③加工講習会の開催、④梅の効能性に着目した「アスリート向けの梅干しの商品化」などの取り組みをご紹介頂いた。



#### 【事例報告】

地域農業士的那須守氏から、高単価で取引されているブランド商品「木熟ミカン 201」（糖度 14 度以上）への取り組みについて、「近年の気象に対応しながら生産するのは大変だが、みかんのトップブランドとして量の拡大と安定供給を図っていきたい。まだまだ儲かる産業だ！」とご報告頂いた。

### 2. 白干梅の魅力を感じて欲しい！白干梅料理のPRを実施（女性部会）

女性部会では、一番身近な梅干しである「白干梅」の魅力をもっと知って欲しいとの思いから、様々な活動を行っている。

平成 26 年 1 月 17 日、次代の食を担う若者に「白干梅」の食べ方や利用の仕方を知ってもらおうと、大阪夕陽ヶ丘学園短期大学に会員 7 名が出向き、食物栄養学科の学生 28 名を対象に、梅料理体験指導を行った。

この日に備えて、梅干し本来のおいしさと梅の持つ栄養成分を余すところなく活かした料理を提案すべく「白干梅」を塩抜きせず、検討・試作を重ね、会員独自のレシピを作成、持参した。



学生からは『梅の料理や成分、使い方を聞けて、より深く梅について知ることができ、家でも梅を使って料理してみようと思った。こういった取り組みは、梅の消費拡大につながる一つの方法である。』などの声があった。

また、指導した農業士からは『梅料理に改めて向き合え、家庭での梅料理の機会が増えた』『今回の様に実際に料理の方法を伝えることが梅の消費PRには大事』などの感想や意見が出て、会員内でも意識統一が図れた。

○今回使用したレシピの一部を公開するので是非、試して見て下さいm(\_ \_)m。

### ★パリパリチキン梅だれあえ★

【材 料】（4人分）

鶏もも肉	2枚
梅酢	大さじ2
片栗粉	適量（多め）
梅だれ	
白干梅	2粒
米酢	大さじ2
砂糖	大さじ2
ごま油	小さじ1
油	適量（もも肉が浸かるくらい）



### 【作り方】

1. もも肉はお湯でさっと洗い、フォークで皮に数カ所穴をあける
2. もも肉に梅酢をふりかけ、1分揉み込む。
3. しっかり片栗粉をつけて両面がきつね色になるまで揚げ焼く。
4. 梅干しの種をとり包丁でたたく。その他梅だれの材料を混ぜ合わせ、3にかける（お好みで）。

※この梅だれは他料理にも合います♪

米酢を大さじ3にしてドレッシングにも♪

## 3. 女性部会初!!

### OB・現役交流会を開催（女性部会）

平成26年2月20日、農業士を定年で解除された女性OBとの交流会を開催し、OBと現役の女性農業士を併せ17名が参加した。

交流会では現役会員が作成した上記レシピの梅料理などを作り、試食しながらの意見交換を行った。

OBといえどまだまだ現役で活躍されている方々ばかりで、互いに得ることの多い交流会となった。今後もOBの知恵を頂きながら、より充実した農業士会の活動を行っていくことを確認した。



梅料理を試食しながら交流会

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 「東牟婁地方農業士会」の活動について

東牟婁地方農業士会連絡協議会事務局

### 1. 新規就農者技術研修会を実施

平成 25 年 8 月 18 日、那智勝浦町中里地区で新規就農者を対象とした技術研修を開催した。

当日は、1 ターン者を中心に同地域への移住に向けて準備している方々や関係者を含め 11 名が参加。会長で指導農業士の塩崎一男氏が講師を務め、秋冬野菜の育苗、特にブロッコリーの播種について研修を行った。

最初に塩崎会長が作業全体の流れを説明、その後、全員で培土の準備・土詰め・播種・覆土等、順を追って作業を行った。

参加者は作業毎に塩崎会長に質問し、また、実演指導を受けるなど充実した研修となった。



全員で播種準備



今後の管理について説明中

### 2. 青年農業士「食育」ナス収穫体験の実施

東牟婁地方青年農業士が中心となって平成 25 年 9 月 5 日、食育や消費拡大推進の一環としてナスの収穫体験を宇久井小学校 3 年生 26 名を対象に那智勝浦町太田地区で開催した。

「太田のナス」組合員で青年農業士である杉浦仁氏や松本安弘氏、青年農業士 OB の平松宏規氏がナスの特徴や栽培方法を説明した後、児童たちは班に別れ、収穫する大きさ、ハサミの使い方などを聞き、各自 6 個ずつの収穫作業を行った。

小雨が降る中、児童たちはきれいで大きなナスを取ろうとほ場内を何度も行ったり来たりしてお気に入りのナスを探していた。

収穫後、新宮公設市場でセリにかけするため、児童の名前が入ったラベルを袋に貼り、3 個ずつ袋詰めをした。児童たちは袋詰めの方法や袋に封をする機械に興味津々で、初めての作業に大喜びしていた。

収穫体験後には、農業士からナスの流通についての説明があり、今回収穫されたナスが市場を通じて、なじみのある地元の商店やスーパーで販売されることを知って驚いていた。

その後、農業士への質問タイムでは「これまでで失敗した経験はありますか?」「1 日でどれくらいとれるのですか?」「一番おいしい食べ方は?」など積極的に疑問に思うことを聞き、農業への理解を深めていた。

児童達からは「ナスが地元でこんなにたくさん作られていることを始めて知った。」「見たことがない

くらい大きいナスを獲ることができて楽しかった。」  
など感想が聞かれ、地域の農業への理解を深めてもらう良い機会となった。



「どれがおいしいかな？」



「できたっ！」

### 3. 東牟婁4Hクラブとの合同研修会の実施

平成26年2月20日、農業士や4Hクラブ員10名が参加し、合同研修会を開催した。

耕作放棄地解消と担い手の確保・育成の先進事例や果樹の品種動向や鳥獣害対策を学ぶため、農業生産法人株式会社JAファームわかやまと県果樹試験場を視察した。

和歌山市のJAファームわかやまでは、JAわかやま営農生活部の田邊営農指導課長から、法人職員が管理作業を行う育苗施設で、設立当初から現在までの経緯、借り入れた土地の活用状況、生産された農産物の販売状況などの説明を受けた。参加者からは「法人で働いた後、新規就農した人は？」「経営的

にどうか？」など積極的に質問がなされ、JAファームの取組に対する関心の高さがうかがわれた。

果樹試験場では担当研究員から試験場が取り組んでいる研究課題や品種育成、鳥獣害対策として試験ほ場に設置された防護柵を中心に説明を受けた。

研修参加者らのほとんどは鳥獣害を被っており、熱心に説明を聞いたり、使われている資材について質問していた。



JAファームわかやまで説明を受ける参加者



防護柵を見ながら意見交換

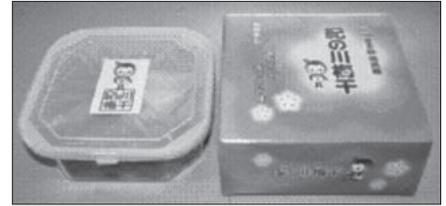
# 地域の逸品!!

## 機能性成分を封じ込めた 紀の川梅干!!

紹介者

紀の川市 指導農業士

小川しず



平成19年5月、新しい那賀ブランドを作ろうとJA紀の里、生産者、加工グループ、紀の川市、岩出市、那賀振興局で「紀の川梅干し振興協議会」を組織化しました。

『紀の川梅干し』とは！

太陽の光と水の豊かなJA紀の里管内で栽培されている、熟した南高梅を手でもぎ取り添加物を使わずに、塩と砂糖だけで漬けた梅干しです。

そして、天日干しした梅を、毎年、県農産物加工研究所で品質の検査をして頂き、基準に合格した梅干を販売しています。現在8グループが加工し、粉河地区の農業士3名で結成した私達、アグリハートも農作業の合間をぬって加工しています。

紀の川梅干し加工グループでは、紀の川梅干を広く知って頂くために、一般の方や学校へ漬け方の出前授業を行っています。

また、10月1日に紀の川梅干の初売りの日や年数回、めっけもん広場で梅ご飯、梅ドレッシングを使った野菜サラダを振る舞って販売促進を行っています。

一度、召し上がって下さい。大変おいしいですよ。

紀の川梅干しの販売は、JA紀の里の直売所（めっけもん広場、OINA CITY）で販売しています。

### 【サイズと価格、ドレッシング】

- |                |         |
|----------------|---------|
| ①化粧箱 (600 g)   | ¥ 2,500 |
| ②パック入り (200 g) | ¥ 380   |
| ③梅ドレッシング       | ¥ 330   |
| ④化粧箱+梅ドレッシング   | ¥ 2,700 |

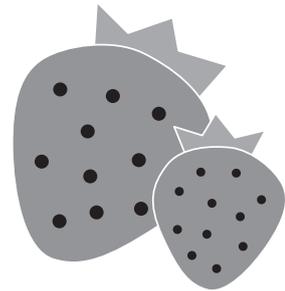


キャラクター「紀のっぴー」

# みかんの里の 「まっちゃんいちご」

紹介者

有田市 青年農業士  
松本 智行



## 1. 商品の紹介

有田市といえばみかんが有名ですが、40年以上前から複合品目としてイチゴが栽培されています。中晩柑の作付が少なかった頃は面積も多かったのですが、現在、私の住む宮原地区ではイチゴ生産農家は4戸となっています。

我が家の栽培面積は約10aで、品種は「まりひめ」「さちのか」の2品種です。特徴としては、減農薬栽培にこだわり、収穫が始まる12月頃からはほとんど農薬を使いません。また、キトサンを栽培床と地上部の両方に施用し、丈夫な株づくりに努めています。



## 2. 販売先等

和歌山市内のスーパーを中心に、県内直売所で販売しています。お客様の評価も高く、朝一番でたくさん並べても、すぐ売り切れてしまいます

昨シーズンからは「まっちゃんいちご」のネーミングで販売していますので、皆さんこのステッカーを見かけたら、是非購入してみてください。



# 秋津野からたちグループが 作る旬の一品！

紹介者

田辺市 地域農業士  
芝 峰 理恵子

田辺市上秋津地区では梅、温州みかんはもちろん、古くから中晩柑栽培が盛んな地域です。

そんな地域で「旬を大切に、ここにしか作れない物をこだわって作ろう！」と秋津野からたちグループが活動しています。

『夏みかんマーマレード』や『だいたいぼん酢（手しぼり）』、『梅ドレッシング』、『梅エキス』 など季節のものを期間限定・数量限定で販売しています。

特に『だいたいぼん酢』は、果汁をたっぷり使い、昆布とかつお節をこれでもか！と使って“本物の味”を追求しています。他の市販品では味わえないほんまものの味を是非ご賞味ください。



お問い合わせ先

秋津野からたちグループ  
代表 高垣せり（指導農業士）  
田辺市上秋津 2238  
FAX：0739-35-0358  
『きてら』『紀菜柑』で販売しています。

商品紹介

夏みかんマーマレード  
だいたいぼん酢（手しぼり）  
梅ドレッシング  
うめびしお  
金山寺みそ 他

# 農業士認定事業について

## 平成25年度和歌山県農業士・グリーンワーカー・ 漁業士認定式を開催 ～県農林水産業のリーダーを認定～

和歌山県農林水産部経営支援課

平成26年2月17日、和歌山市内のホテルで農業士・グリーンワーカー・漁業士の認定式を開催しました。

本式典では、県農林水産業の中核的な担い手でリーダーとして活動している87名（うち農業士は78名）の方々に認定証を交付いたしました。

式典で、知事は『それぞれの立場で県農林水産業を発展に導いて下さい』と激励し、認定された方を代表し、みなべ町の指導農業士 大山勇さんが認定者を代表して『地域の農林水産業の活性化に向け、より一層努力することを誓います』と決意を表明されました。

また、今年度で定年を迎えられる指導農業士33名の方々には感謝状が贈呈されました。今回の認定によって、県内の農業士は926名となりました。

なお今回、農業士の認定を受けられた皆様、感謝状を受け取られた皆様は50～51ページのとおりです（敬称略）。



知事から認定証を交付



式典終了後、記念撮影（知事と花田健吉県議会副議長を囲んで）

【指導農業士に認定された皆様 22名】

氏名	市町村名	氏名	市町村名
河島 康典	和歌山市	江川 卓	岩出市
河嶋 保儀	和歌山市	新崎 裕功	岩出市
岩本 治	海南市	松岡 和美	かつらぎ町
馬場 伸之	海南市	池永 達彦	広川町
宮尾 修司	海南市	後安 栄造	有田川町
西 くみ子	紀美野町	竹中 利幸	有田川町
水谷 好宏	紀美野町	最明 あけみ	御坊市
稲垣 明美	紀の川市	岩崎 幸生	印南町
谷 和久	紀の川市	大山 勇	みなべ町
野尻 久江	紀の川市	龍田 雅人	日高川町
保田 尚徳	紀の川市	中村 幸男	日高川町

【地域農業士に認定された皆様 38名】

氏名	市町村名	氏名	市町村名
森岡 利行	海南市	川口 和男	有田川町
小坂 博子	紀の川市	新宅 諭	有田川町
高井 恵美	紀の川市	中谷 宗幹	美浜町
中浴 泉	紀の川市	杉谷 哲哉	由良町
鍋田 育子	紀の川市	濱野 一宏	由良町
宮楠 園子	紀の川市	中川 敏之	印南町
山田 和美	紀の川市	白井 正	日高川町
山名 知津	紀の川市	中川 裕行	日高川町
亀井 裕司	岩出市	西川 義高	日高川町
藤井 和也	岩出市	塚本 充	日高川町
松見 学	岩出市	片井 邦芳	田辺市
前坂 昇義	かつらぎ町	芝崎 智也	田辺市
江川 篤志	有田市	瀧本 智士	田辺市
江川 英次	有田市	田中 直美	田辺市
松本 将輝	有田市	那須 輝也	田辺市
勝浦 かをり	湯浅町	東 真也	田辺市
川瀬 和典	湯浅町	井濶 正晴	上富田町
下出 真弘	広川町	太田 喜文	那智勝浦町
池下 康実	有田川町	杉浦 仁	那智勝浦町

【青年農業士に認定された皆様 18名】

氏名	市町村名	氏名	市町村名
井口 智晴	和歌山市	海堀 善照	九度山町
泉 政行	和歌山市	金丸 真也	湯浅町
戸口 陽介	和歌山市	尾崎 行雄	有田川町
松本 一輝	和歌山市	井本 正勝	御坊市
前阪 喜之	紀の川市	黒田 誠司	御坊市
前田 直樹	紀の川市	田淵 秀樹	美浜町
西 歩	岩出市	中家 祥博	印南町
小林 大将	橋本市	畑野 正之	みなべ町
新田 芳久	橋本市	亀井 浩	日高川町

【今回指導農業士を解除になり感謝状の贈呈を受けられた皆様 33名】

氏名	市町村名	氏名	市町村名
泉 政一	和歌山市	森川 文夫	有田市
西村 芳規	和歌山市	三ツ橋 忠男	湯浅町
裕 正昭	海南市	須佐見 勉	有田川町
石橋 しげ子	海南市	大西 義朗	有田川町
松本 京子	紀美野町	小坂 善彦	有田川町
横山 行雄	紀美野町	湯川 吉一	御坊市
池田 維佐子	紀の川市	庄田 栄次	印南町
永長 綱子	紀の川市	岩本 正文	みなべ町
坂ノ上 道子	紀の川市	井上 光博	みなべ町
今西 敏文	紀の川市	尾崎 剛通	みなべ町
池田 恆雄	岩出市	小瀬 渉	日高川町
赤井 重子	岩出市	坂田 順子	日高川町
藤井 和代	橋本市	宮所 ひろ子	日高川町
赤井 建夫	橋本市	山崎 茂樹	日高川町
北林 徳夫	橋本市	上村 誠	白浜町
赤阪 岩男	かつらぎ町	瀧本 憲生	古座川町
阪中 章剛	九度山町		

# 県の農業関係新政策の紹介

## 『野菜花き産地総合支援事業』について

和歌山県農業士会連絡協議会事務局

平成 26 年度から、県内における野菜花き産地の拡大や活性化を推進するため、各地域の農業協同組合が策定する産地構造改革計画に基づく、収益性向上のための『施設整備などのハード事業』や『消費拡大活動などのソフト事業』などに対して、総合的な支援を行う『野菜花き産地総合支援事業』が実施されます。

事業の概要は以下のとおりを予定されています。

- ◇事業主体：JA、出荷団体、協議会等
- ◇事業期間：2カ年以内
- ◇補助限度額：10,000千円  
(省エネ、ハウス導入を含む場合は25,000千円)

◇事業メニュー等

対策	ハード事業	補助率	ソフト事業	補助率
省エネ	循環送風機、多重カーテン、ヒートポンプ 廃熱回収機、エコフィン、ダブルアーチハウス 空気膜ハウス など	1/2以内(H26) (H27以降は1/3)	○研修会開催 ○展示圃設置 ○通いコンテナリース ○「母の日参りプロジェクト」など消費拡大のためのPR	1/2以内
高品質	遮光(遮熱)ネット、ミスト装置、高設栽培装置 パイプハウスの高度化 など	1/3以内		
省力・低コスト	播種期、育苗施設、定植機、収穫機 など			
流通	予冷・保冷庫、選別機、袋詰め機 など 流通コスト低減・鮮度保持のための 集出荷機械設備			
複合経営産地育成	ハウスの導入			

\*表中の下線部は新規補助対象メニュー

\*本事業の内容は、平成 26 年 2 月和歌山県議会で平成 26 年度予算で成立することを前提とした内容ですので、あらかじめ御了承下さい。

\*本件に関するお問い合わせは各振興局農業振興課または果樹園芸課【TEL073-441-2904】まで

## (参考) 農業士について

昭和 51 年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、「指導農業士(65 歳まで)」「地域農業士(60 歳まで)」「青年農業士 (40 歳まで)」付与される称号。

平成 26 年 3 月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	176 名 (うち女性	24 名)
地域農業士	584 名 (うち女性	70 名)
青年農業士	166 名 (うち女性	1 名)
合 計	926 名 (うち女性	95 名)



表紙の人

紀の川市指導農業士

**厚地 美穂**さん

(和歌山県農業士会連絡協議会理事)

厚地さんは県内でトップクラスの規模を誇る

スプレーギク生産者。県下の産地を牽引する。

有限会社農業生産法人『マムフェローファーム』を設立し、合理的な経営に取り組むと共に花育など地域貢献活動にも意欲的に取り組む。

【詳細は 4 ページに掲載しています。】

## 和歌山の農業士 第 2 号

発行日：平成 26 年 3 月 24 日

編 集：和歌山県

農業士会連絡協議会

印 刷：有限会社 阪口印刷所



# 和歌山の 農業士

和歌山県  
農業士会連絡協議会

